

木本探検倶楽部

熊野古道が世界遺産に登録されたことを機に、熊野市木本町の歴史や文化を勉強するための会「木本探検倶楽部」が、平成17(2005)年に発足されました。木本地区の魅力を掘り起こし、それらを伝える活動を行い、メンバーが学んだことを活かして、ガイドにも力を入れ、他地域の団体とも交流を行うなど、町の魅力発信に取り組んでいます。



代表 西 一夫さん

お問い合わせ

「木本探検倶楽部」
西 一夫さん(西書店)
熊野市井戸町653-17
TEL 0597-85-3664

商家が連なり、風情ある町並みが残る熊野市木本町は、江戸時代に紀州徳川家の本藩公領地として「奥熊野代官所」が置かれ、古くから熊野地方の中心地として栄えました。また熊野古道の松本峠や鬼ヶ城などの観光地もあり、多くの旅人が訪れます。木本町の町の魅力再発見に取り組み「木本探検倶楽部」は、埋もれている文化や歴史を掘り起こし、地域の宝を後世につなげていこうと活動しています。代表の西 一夫さんにお話を伺いました。

—— 結成のきっかけとなった出来事はなんでしょうか。

—— 西さんが一番興味深かったのは、

—— どんなことでしょうか。

西：鬼ヶ城西口の上の山に浅間神社があり、そこまでの道を整備したことがあります。天保の飢饉の頃の話として、炊き出しを行った「浅間粥」というのが伝わっていて、その炊き出しは実際には代官所から出されたものだそうですが、地域には氏子たちが講の費用を捻出して救ってくれたと伝わっていて、信仰の篤さがうかがえます。今は漁業関係者の方たちがこの社を守ってくれています。

—— 勉強会のほか、これまでの活動を



松本峠付近の清掃活動※



浅間神社で整備の仲間と※



高田越を歩いて調査する※



寺の歴史をまとめた自作の資料※



木本町本町通りの福嶋邸にて※

教えてください。

西：今までに得た木本町の知識を活かし、平成24(2012)年から地域内外へその魅力を発信していこうとガイドの活動を始めました。「くまの体験企画(尾鷲市)」が行うツアーで「もうひとつの松本峠」として高田越を紹介したり、ほか団体との交流も行っています。

—— ガイドの特徴はどんなところでしょうか。

西：自分たちが興味のあることを話すので、偏りがあるかもしれませんが、熱意を持ってガイドをしています。ガイドを行う上で楽しいことは、いろいろな

西：木本町の氏神さんは木本神社でも、もともとは新田地区にあった「若一王子権現」を、現在の地に遷したといわれています。その元宮について、地域の「生き字引」と呼ばれる方に教わり、訪ねたことが活動のきっかけです。深い谷に砂防や屋敷、田んぼ跡が残り、桜の大木のそばに元宮がありました。今は誰も住まない場所、人は神にすがるしかなかったのだらうと想像できました。そんな地元である木本町の歴史や文化について、わたしたち自身があまり知らないと感じ、また当時は熊野古道が世界遺産に登録された機運もあり、およそ10人ほどが月に1度、勉強会をしようと集まりました。

—— どんなテーマで勉強会を行いましたか。

西：まずは木本神社の境内に祀られている吉田大明神の石祠についてです。これは「安政の村替騒動」と呼ばれるもので、ほかに300年以上の伝統を誇る熊野大花火の歴史や整備の早かった木本町の水事情についても調べました。熊野古道松本峠付近の高田越も探索しました。松本峠は世界遺産に登録され、訪れる人も多い古道ですが、そこから外れた山の中に、田畑を獣害から守るための猪垣が迷路のように張り巡らされています。棚田跡や段々畑跡に、城壁のように高い石垣がひっそりと残され、大きな石が積み上げられた様子から、先人た

に出会えますし、人に伝えることで自分も勉強になります。

—— こしばらくはそういった機会もなかったのですが、再び観光客も訪れますので、そんな方に木本町で一日過ごせるようなプランや、地元向けにまちの魅力を再確認できるようなツアーを開催したいと考えています。

—— 「木本探検倶楽部」では、コロナ禍でもフェイスブックを通じて、町の魅力を発信していました。常に地元に愛し探究心を持って、今後も活動の幅を広げていってほしいです。

インタビュー……中村 元美